

- 問1 渡来人が日本列島にもたらした技術や文化のうち、当時のヤマト政権（大和朝廷）が組織を運営し、他国との交渉を行う上で、特に記録や伝達の手段として不可欠となったものはどれか。（2017年 徳島公立入試 類似）
1. 漢字
 2. 仏教
 3. 須恵器の製作技術
 4. 機織りの技術
- 問2 大和政権の時代、大陸から移住してきた渡来人がもたらした技術や文化について述べたものとして、最も適切なものはどれか。（2023年 鹿児島公立入試 類似）
1. 金属を精錬する技術や、高温で焼いて作る硬い土器である須恵器の製作技術
 2. 唐の法律にならって作られた大宝律令などの統治制度
 3. 九州沿岸を守るために配置された防人による防衛の仕組み
 4. 遣隋使によって直接もたらされた、隋の進んだ政治制度
- 問3 5世紀初めから約1世紀の間にわたって行われた、ヤマト王権の外交活動に関する記述として正しいものはどれですか。（2024年 山口公立入試 類似）
1. 中国の南朝の歴史書に、倭の五王と呼ばれる王たちが使者を送った記録が残されている
 2. 中国の魏の歴史書に、女王が金印を授かり親魏倭王の称号を得た記録が残されている
 3. 小野妹子が使者として派遣され、中国の皇帝に対して対等な形式の国書を渡した
 4. 唐へ渡った留学生たちが、帰国後に大化の改新の政治改革を主導する役割を担った
- 問4 4世紀から7世紀にかけて、近畿地方の有力な一族を中心として組織され、日本の大部分を統治した政治組織の仕組みについて述べたものとして最も適切なものはどれですか。（2022年 茨城県公立入試 類似）
1. 大王（おおきみ）と呼ばれる首長を中心として、各地の有力な豪族が連合して構成された。
 2. 漢の皇帝から授けられた金印を持つ王が、中国の王朝に対して朝貢を行うことで統治した。
 3. 貴族が摂政や閑白の職を独占し、天皇に代わって政治の実権を握る体制がとられた。
 4. 地方の武士が幕府を開き、土地の支配権を保証することで全国の武士を統制した。
- 問5 古墳時代に見られる、上から見ると鍵穴のような形（一方が四角く、一方が丸い）をした古墳の特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。（2021年 鹿児島公立入試 類似）
1. 近畿地方を本拠とする大和政権の拡大に伴い、各地の首長に受け入れられた形式である
 2. 弥生時代に中国大陸から伝わった形式であり、主に北九州地方で多く見られる
 3. 聖徳太子による冠位十二階の制定と同時に、身分を示す墓として推奨された
 4. 鎌倉時代に幕府の許可を得た武士のみが、自分の領地に築くことができた
- 問6 4世紀末から5世紀の山口県の古墳から出土した銅鏡の記述など、瀬戸内海の航路の要所に位置する地域から王権に関連する品々が見つかることがあります。この事実から推測される、当時のヤマト王権の地方支配のあり方として正しいものはどれですか。（2024年 山口公立入試 類似）
1. 海上交通の要所に位置する豪族と連携し、物流や情報のルートを確認しようとした
 2. 邪馬台国の女王卑弥呼が中国から受け取った鏡を、瀬戸内海の豪族に再分配した
 3. 遣隋使を派遣するための寄港地を確保するため、山口県周辺を王権の直轄地とした
 4. 大陸から伝来した青銅器の製造技術を、農業振興のために全国の農民へ普及させた
- 問7 群馬県の綿貫観音山古墳から出土した資料などに見られる、灰色で硬く焼き締められた土器の製作上の特徴について述べた文として、最も適切なものはどれか。（2021年 群馬県公立入試 類似）
1. 朝鮮半島から伝わった技術を使い、穴窯の中で酸素を制限しながら高温で焼かれた
 2. 日本列島で古くから用いられてきた伝統的な技法で、野外で比較的低い温度で焼かれた
 3. 稲作が普及し始めた時期に、表面に縄目の文様をつけてから乾燥させて焼かれた
 4. 中国大陸の青銅器の影響を強く受け、表面に複雑な幾何学文様を彫り込んで焼かれた
- 問8 5世紀頃、大陸から日本へ移住した人々によって伝えられた技術のうち、それまでの赤褐色の土器とは異なり、穴窯を用いて高温で焼かれた硬い灰色の土器を何と呼びますか。（2021年 鳥根公立入試 類似）
1. 縄文土器
 2. 弥生土器
 3. 須恵器
 4. 土師器
- 問9 大和政権の性格について、それ以前の弥生時代の社会状況と比較した説明として、最もふさわしいものはどれか。（2025年 秋田公立入試 類似）
1. 近畿地方の豪族が中心となり、各地の有力な勢力と連合することで広域的な政治支配をめざした。
 2. 大陸からの渡来人によってもたらされた仏教と文字を政治の基盤として、中央集権的な国家を完成させた。
 3. 特定の女王がまじないなどの呪術的な力を用いて、各地の小国を完全に服従させ、争いを根絶した。
 4. 銅鐸を用いた共通の祭祀を通じて、各地の小国が独立性を保ったまま、利害関係のない経済圏を築いた。
- 問10 4世紀から7世紀頃、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移り住み、須恵器の製作技術や漢字、仏教などを伝えた人々を何と呼ぶか。（2023年 鹿児島公立入試 類似）
1. 渡来人
 2. 遣隋使
 3. 防人
 4. 御家人
- 問11 埼玉県にある稲荷山古墳から「ワカタケル大王」の名が刻まれた金錯銘鉄剣が出土した一方で、熊本県にある江田船山古墳からも同様に大王の名が記された鉄刀が見つかっています。これらの発見から推測される、5世紀後半における大和政権の状況として最も適切なものはどれですか。（2017年 大阪公立入試 類似）
1. 大和政権の支配力が、九州から関東までの広い範囲に及んでいた。
 2. 大和政権の本拠地が、近畿地方から関東地方へ移転した。
 3. 九州地方と関東地方の豪族が連合して、大和政権に対抗していた。
 4. 朝鮮半島から伝わった鉄器の製造技術が、関東地方でのみ独占されていた。
- 問12 5世紀ごろに造られた大仙古墳のような巨大な前方後円墳について、このような大規模な墳墓が築かれた歴史的な背景として最も適切な説明はどれか。（2020年 三重公立入試 類似）
1. 仏教の伝来とともに、死者を弔うために巨大な寺院を建てる習慣が広まったため。
 2. ヤマト政権の大王が、膨大な労働力を動員できるほどの強大な権力を持っていたことを示すため。
 3. 大陸から伝わった稲作の技術を普及させるために、神を祀る祭祀場を各地に作ったため。
 4. 各地域の小国が、他国からの侵略を防ぐための軍事的な要塞として築いたため。
- 問13 400年頃に倭王が中国へ使いを送っていた記録がある時代から、平城京へと遷都されるまでの期間にかけて、日本列島では大陸との交流が盛んに行われました。この時期の文化や技術の伝来について述べた文として、正しいものを選択してください。（2023年 愛媛公立入試 類似）
1. 渡来人によって、須恵器の製作技術や、漢字・儒教・仏教などが日本へ伝えられた。
 2. 大陸との交流を通じて、源氏物語や枕草子に代表される国風文化が開いた。
 3. 大陸から最新の農業技術が伝わり、脱穀のための千歯扱きが全国に普及した。
 4. 中国から大量の銅銭が流入したことで、須恵器に代わって貨幣経済が急速に発達した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 漢字	文字を持たなかった当時の日本において、渡来人がもたらした漢字は極めて重要な役割を担いました。ヤマト政権は、渡来人の子孫たちを「史（ふひと）」などの役職に就け、朝廷の記録作成や、中国・朝鮮半島の諸国との外交文書の作成に当たらせました。これにより、組織的な統治や国際的な交渉が可能になりました。
問2	答え 1 金属を精錬する技術や、高温で焼いて作る硬い土器である須恵器の製作技術	渡来人は専門的な技術を持った集団として、大和政権下で重用されました。彼らが伝えた須恵器は、それまでの弥生土器や古墳時代の土師器（はじき）とは異なり、穴窯を用いて1000度以上の高温で焼成された青灰色の硬い土器です。また、鉄製品の加工や農具の改善なども行われ、日本の農業や生活様式に劇的な変化を与えました。
問3	答え 1 中国の南朝の歴史書に、倭の五王と呼ばれる王たちが使者を送った記録が残されている	5世紀、ヤマト王権は当時の中国の南朝（宋など）へ朝貢を行っていました。中国の歴史書には、讚・珍・済・興・武という5人の王が記録されており、彼らが軍事的な称号や政治的地位を求めていたことが記されています。他の選択肢は、3世紀の邪馬台国、7世紀の遣隋使、あるいは7世紀以降の遣唐使に関する内容であり、時代背景が異なります。
問4	答え 1 大王（おおきみ）と呼ばれる首長を中心として、各地の有力な豪族が連合して構成された。	4世紀頃に近畿地方を拠点として成立した大和政権は、豪族と呼ばれる有力な一族が連合して形成された組織です。その中心には「大王（おおきみ）」と呼ばれる世襲の王が君臨し、有力な豪族たちは職務を分担して政権を支えました。この体制は、後の律令国家へと発展していく基礎となりました。
問5	答え 1 近畿地方を本拠とする大和政権の拡大に伴い、各地の首長に受け入れられた形式である	前方後円墳は3世紀後半から造られ始め、大和政権（ヤマト王権）の拡大とともに全国へ普及しました。大阪府にある大山古墳（伝・仁徳天皇陵）のように世界最大級の規模を持つものもあり、これは当時の王の権力の強さを物語っています。
問6	答え 1 海上交通の要所に位置する豪族と連携し、物流や情報のルートを確保しようとした	ヤマト王権が全国的な影響力を強めるためには、朝鮮半島や中国大陸との外交、あるいは国内の物資輸送に欠かせない海上交通路を掌握することが不可欠でした。山口県のように瀬戸内海沿岸の重要な地点を治める豪族に対し、権威の象徴である銅鏡を与えることで味方につけ、安定した航路の確保と地方への影響力行使を両立させていたと考えられます。なお、卑弥呼の時代は3世紀であり、この問題が扱う4～5世紀とは時代が異なります。
問7	答え 1 朝鮮半島から伝わった技術を使い、穴窯の中で酸素を制限しながら高温で焼かれた	群馬県の綿貫観音山古墳から出土したような灰色の硬質な土器は須恵器と呼ばれます。これは5世紀頃に朝鮮半島から伝来した技術で、斜面に作った穴窯を使用することで、野焼きでは不可能な1000度以上の高温状態を保って焼成されました。この製法によって粘土が焼き締まり、金属のような硬さを持つ土器が誕生しました。
問8	答え 3 須恵器	渡来人は日常生活に密着した技術も多く伝播させました。それまで日本で作られていた土器よりも高い温度で焼成する技術や、ろくろを使用する技法が伝わったことで、より実用的で耐久性の高い器が生産されるようになりました。
問9	答え 1 近畿地方の豪族が中心となり、各地の有力な勢力と連合することで広域的な政治支配をめざした。	大和政権は、近畿地方の有力豪族が連合して形成された政治組織です。これは、小国が独立して割拠していた弥生時代の状態や、単一の強力な王が全国を直接支配する形態とは異なります。複数の有力な勢力が「連合」という形で結びつくことで、大規模な土木作業が必要な古墳の築造や、対外的な交渉が可能になるほどの広域的な統治体制を整えていったことが大きな特徴です。選択肢にある銅鐸の祭祀や『魏志』倭人伝の記述は、大和政権が成立する以前の弥生時代の特色を指しています。
問10	答え 1 渡来人	大陸での争乱を避けるために日本に移り住んだ、あるいは大和政権に招かれた人々を指します。彼らは土木、養蚕、機織り、金属加工などの高度な技術のほか、漢字や仏教、儒教といった思想・文化をもたらし、日本が国家としての形を整える上で重要な役割を果たしました。
問1	答え 1 大和政権の支配力が、九州から関東までの広い範囲に及んでいた。	関東（埼玉県・稲荷山古墳）と九州（熊本県・江田船山古墳）という遠く離れた地域の双方から、大和政権の王であるワカタケル大王の名を記した遺物が見つかったことは、当時の政権の政治的影響力が日本列島の広範な地域に及んでいたことを証明する重要な歴史的事実です。
問1	答え 2 ヤマト政権の大王が、膨大な労働力を動員できるほどの強大な権力を持っていたことを示すため。	大仙古墳のような巨大な前方後円墳の建設には、延べ数百万人とも言われる膨大な労働力と長い年月が必要でした。これほど大規模な墓を築くことができた事実は、被葬者である大王が近畿地方を中心として、広範囲にわたる民衆や地方の豪族を統制し、支配下に置いていたことを証明しています。
問1	答え 1 渡来人によって、須恵器の製作技術や、漢字・儒教・仏教などが日本へ伝えられた。	古墳時代の5世紀前後から、朝鮮半島や中国大陸から移り住んだ「渡来人」は、当時の日本に存在しなかった高度な技術や文化を伝えました。これには、須恵器の製作技術のほか、機織り、金属工芸、さらには漢字や儒教、そして後の飛鳥文化の基盤となる仏教などが含まれます。選択肢にある「国風文化」は平安時代中期、「千歯扱き」は江戸時代の特色であり、この時期の出来事とは一致しません。